

医学部事務部

高柳 由和

医学部事務部については、1964年9月に『千葉大学医学部八十五年史』が刊行されたがその際には特に記述がなかったので135周年記念誌の刊行にあたっては、若干新制大学創立当時のことにも触れておきたい。

創立当初は、旧制医科大学から引き続いた事務組織であったが下記組織図をみてもわかるように、新に専門職員が配置されているが、庶務係、会計係、教務係、厚生係など係の名称、業務内容はともかく国立大学法人化に移行するまでそのまま引き継がれた。

その後、1963年に施設係が設置され、1978年に附属図書館亥鼻分館事務部の設置により図書係が同分館に移行した。その後しばらくは組織の変更はなく、1994年に増大する献体業務に対応するため解剖事務担当の専門職員（2002年に医学教育研究推進事務担当に改称）が、また1996年には大学院生の増大により大学院担当専門職員が配置された。1997年には、施設関係業務を会計係に移管、施設係を廃止し、学術経理係を設置した。

1998年に授業料免除等業務が学生部に集約され、教務係が学務係に改組され、学生担当の専門職員が配置された。また、大学院担当専門職員を廃止し大

学院係に整備された。

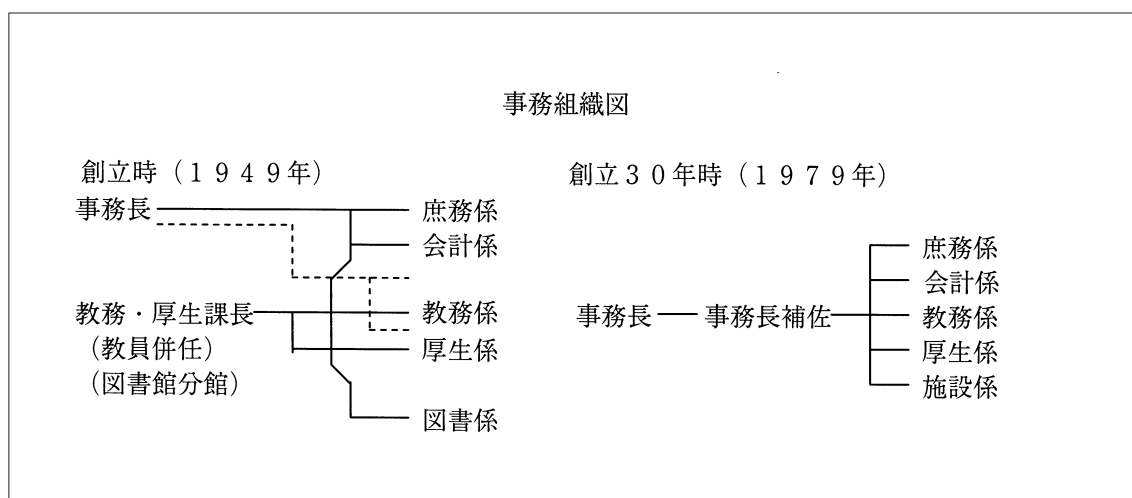
2004年の法人化へ移行の際には、全学的に事務組織の見直し、整備が行なわれ、事務長補佐が専門官（企画調整担当）に、庶務係が総務係に改組された。また会計業務の一部が事務局へ集約化され、会計係及び学術経理係を廃止し、経営担当の専門職員が配置された。

更に2007年には法人化後の増大した業務に対応するため、効率的な運営を目指し、係制が廃止され、事務組織のフラット化とグループ制が導入された。医学部事務部も総務経営グループと学務グループ制となった。翌2008年には総務経営グループが総務グループと経営グループに分かれ、三グループ体制となっている。

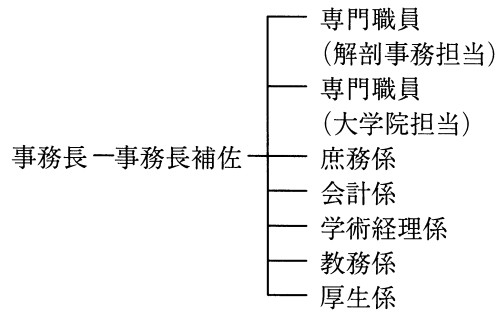
一方、事務系職員の配置状況については、組織と対照的にその員数が大幅に減っていることが職員数の推移の表から一目瞭然に読み取れる。これは主に、1969年からの定員削減と事務局への業務の集約化に伴うものが主であるが、行（二）職員関係については、不補充措置や業務の外注化などの合理化によるところが大きい。

（たかやなぎ よしかず）

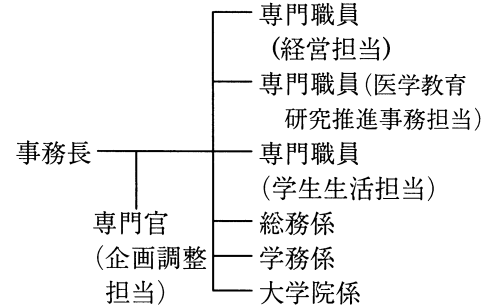
事務組織図



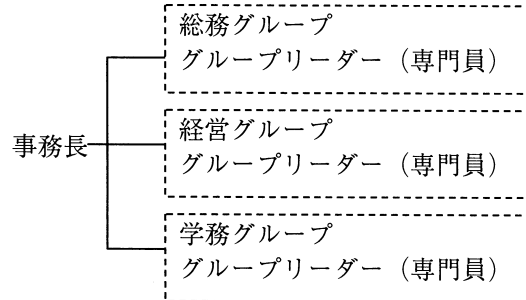
1997年時



2004年法人化時



2008年現在



注)各グループリーダーの下に専門職員、主任、係員を必要数配置

事務系職員数の推移

職種等	行(一)	行(二)				医(二)	教(一)	計
		技(甲)	技(乙)	労(甲)	労(乙)			
1979年	58	2	16	6	10	8	4	104
1997年	59	0	7	1	0	1	3	71
——	一般職(一)							——
2008年	46							46